

『問答語』の漢語語彙(5)

竹越 孝

(承前)

9. 連詞

9.1 等立句

9.1.1 承接

“就”

太田(1958:323)では「承接する連詞の多くは副詞とも考えられるものであるが、ここではしばらく連詞に入れておく」とする。

“就”は9例用いられ、うち“就會”的形が2例、“就像～(一樣)”の形が3例ある。

満洲語では副詞 *uthai* (すぐ, すなわち) に対応するものが5例、副詞 *baibi* (ただ, 無駄に) に対応するものが1例あるほか、“就會”的2例を含む3例では特に対応する語彙がない。

- (1) 就出去麼 (5b1) 〈*uthai*〉
- (2) 書就像磨石頭一樣 (22a4) 〈*uthai*〉
- (3) 就像扭眼睛 (21b3) 〈*baibi*〉
- (4) 就會耽悞 (4b2) 〈*sartabumbi*〉

“就是”

“就是”は2例用いられており、いずれも副詞の“就”に動詞“是”が後続したものと見てよい。

満洲語では、1例が副詞 *damu* (ただ, わざかに) に対応し、もう1例は特に対応する語彙を持たない。

- (1) 就是那個四眼狗 (20a3) 〈*damu*〉
- (2) 没有就是墩子 (10a2) 〈*luhu*〉

9.2 主従句Ⅱ

9.2.1 因果

“因爲”

太田（1958：329）では、「因果・讓歩など7種の連詞は相互の関係が密接で、その上紛らわしい点がある」として、これらを「主従句に用いる連詞Ⅱ」に分類する。

“因爲”は1例用いられている。

満洲語では後置詞 *jakade*（～のゆえに、～のために）に対応する。

- (1) 因爲有事 (2a6) ⟨*jakade*⟩

“因此上”

“因此”はなく、“因此上”が1例用いられている。

満洲語では指示副詞 *uttu*（こう、このように）に動詞 *o-*（なる、できる）の先行形が後続した *uttu ofi*（こうなので、それゆえ）の形が対応する。

- (1) 因此上 (5b3) ⟨*uttu ofi*⟩

9.2.2 讓歩

“雖然”

“雖然”は1例用いられている。

満洲語では後置詞 *gojime*（とはいえ、だけれども）が対応する。

- (1) 雖然好 (11b4) ⟨*gojime*⟩

9.2.3 仮定

“若”

“若”は3例用いられている。

満洲語では動詞 *o-* の条件形 *oci*（～ならば）が対応するものが2例、動詞の条件形に対応するものが1例ある。

- (1) 鏡子若不磨 (22a6) ⟨*oci*⟩
(2) 你若果真來 (20b3) ⟨*jici*⟩

“若是”

“若是”は4例用いられている。

満洲語ではすべて動詞 *o-* の条件形 *oci* に対応する。

- (1) 若是小魚 (6b2) ⟨*oci*⟩
(2) 若是那們着 (20a4) ⟨*oci*⟩

“倘若”

“倘若”は1例用いられている。

満洲語では副詞 aikabade (もしも, もしかして) が対応する。

- (1) 倘若不來 (20b4) ⟨aikabade⟩

“要是”

“要是”は9例用いられている。

満洲語では副詞 aika (もしも, あるいは) に対応するものが3例, 後置詞 manggi (~したあと, ~すると) に対応するものが2例, 動詞 se- (言う, ~という) の条件形 seci に対応するものが2例, 動詞の条件形 -ci に対応するものが2例である。

- (1) 要是喫 (11b1) ⟨aika⟩
(2) 要是喫 (12a1) ⟨manggi⟩
(3) 要是進去 (19b5) ⟨seci⟩
(4) 要是跌了 (5a1) ⟨tuheci⟩

10. 助詞

10.1 連語

10.1.1 類似

“一樣”

“一樣”は2例用いられ, いずれも“像～一樣”の形である。

満洲語ではいずれも形容詞 adali (同じ, ~のような) に対応する。

- (1) 就像鏡子一樣 (22a3) ⟨adali⟩

10.1.2 仮定

“時候”

“時候”は1例用いられ, “～的時候”の形を取る。

満洲語では動詞 o- の過去連体形 oho に与位格語尾 -de が接尾した ohode (なった時, なつたら) に対応する。

- (1) 射的時候 (10a4) ⟨ohode⟩

10.2 句末

10.2.1 甲類

“嗎”

太田 (1958: 359) では句末助詞を二類に分け, 句の最後に位置して疑問・推測などの非叙実的語気を添加するものを甲類, 句の最後に位置する

とは限らず、述語に対して存在・已然・曾然などの叙実的語気を添加するものを乙類と呼ぶ。

“嗎”は1例用いられている。

満洲語では疑問語尾の特殊形式である -n に対応している。

- (1) 不到家裡去嗎 (1b4) 〈darirakūn〉

“麼”

“麼”は27例用いられている。

満洲語では疑問語尾 -o に対応するものが24例、その特殊形式である -n に対応するものが2例のほか、特に対応する語彙が存在しないものも1例ある。

- (1) 來了麼 (1a1) 〈jiheo〉
(2) 就出去麼 (5b1) 〈tucimbio〉
(3) 纔來的麼 (jihenggeo) (6b6)
(4) 好麼 (2a1) 〈saiyūn〉
(5) 又要人催麼 (21a1) 〈baibumbi〉

“嗎”と“麼”では用法に差はないと思われるが、“麼”的表記が圧倒的に優勢である。

“呢”

“呢”は6例用いられている。

満洲語では、文末後置詞 ni (～だ、～なのだ) に対応するものが1例、還沒～呢の形で後置詞 unde (まだ～しない) に対応するものが2例あるほか、動詞の現在終止形 -mbi、完了形 -habi に対応するものがそれぞれ1例、対応語彙が存在しないものも1例ある。

- (1) 賴怠臭也有呢 (16a4) 〈bini〉
(2) 還沒呢 (4a3) 〈unde〉
(3) 怎麼得明呢 (22b1) 〈isinambi〉
(4) 收之呢 (9b3) 〈asarahabi〉
(5) 還早呢 (4a1) 〈erde〉

“着”

太田 (1958:366) では「北方語で命令を表すばあいに用いる助詞」とする。“這們着”的形で1例用いられている。

満洲語では、副詞 ume (～するなかれ、決して～するな) に動詞 o- の

未来連体形 ojoro が後続した形が対応している。

- (1) 別要這們着 (8b1) ⟨uttu ojoro⟩

“罷”

“罷”は1例用いられている。“吧”の字体はない。

満洲語では、動詞の希求希望形 -ki が対応する。

- (1) 再來罷 (3b6) ⟨jiki⟩

“罷咧”

“罷咧”は6例用いられており、すべて述語に後続する助詞としての用法である。

満洲語ではすべて文末後置詞 dabala (～ばかりだ, ～なだけだ) に対応する。

- (1) 纔煎得罷咧 (6b2) ⟨dabala⟩
(2) 不是的罷咧 (8a6) ⟨dabala⟩

“呀”

“呀”は2例用いられており、いずれも“罷呀”の形を取る。

満洲語ではいずれも動詞 joombi (やめる, 中止する) の命令形 joo に文末後置詞 bai (～だろう, ～しないか) が後続した joobai (十分だ, やめよう) に対応している。

- (1) 罷呀 (1b4) ⟨joobai⟩

10.2 準句末

“纔是”

太田 (1958:392) では準句末助詞を「もと全句の述語であったものが退化し、単に強調あるいは制限の語気を有するにとどまるに認められるもの」とする。

“纔是”は4例用いられている。すべて述語に後置し、うち2例は副詞“該當”に呼応する。

満洲語では、すべて動詞の条件形 -ci に acambi (合う, 会う) が後続して義務・当然を表す形に対応している。

- (1) 該當責罰纔是 (3a5) ⟨jokjaci acambi⟩
(2) 重新換纔是 (9b1) ⟨halaci acambi⟩

“就完了”

“就完了”は3例用いられ、すべて述語に後置する。

満洲語では副詞 *uthai* に動詞 *wajimbi*（終わる、尽きる）の過去連体形 *wajiha* が後続した形に対応するものが2例、*uthai* を欠く *wajiha* のみに対応するものが1例である。

- (1) 不理他就完了 (14a5) 〈*uthai wajiha*〉
- (2) 你的馬箭生疎就完了 (16a5) 〈*wajiha*〉

[了]